

京都府漁海況情報

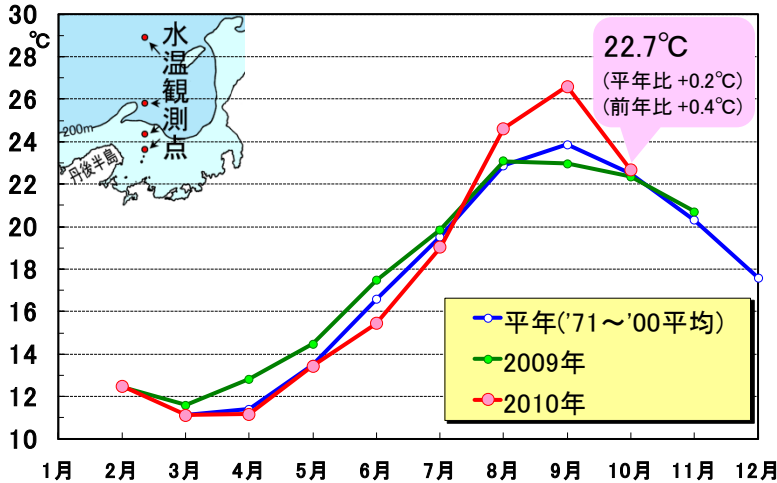
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況

【現況】

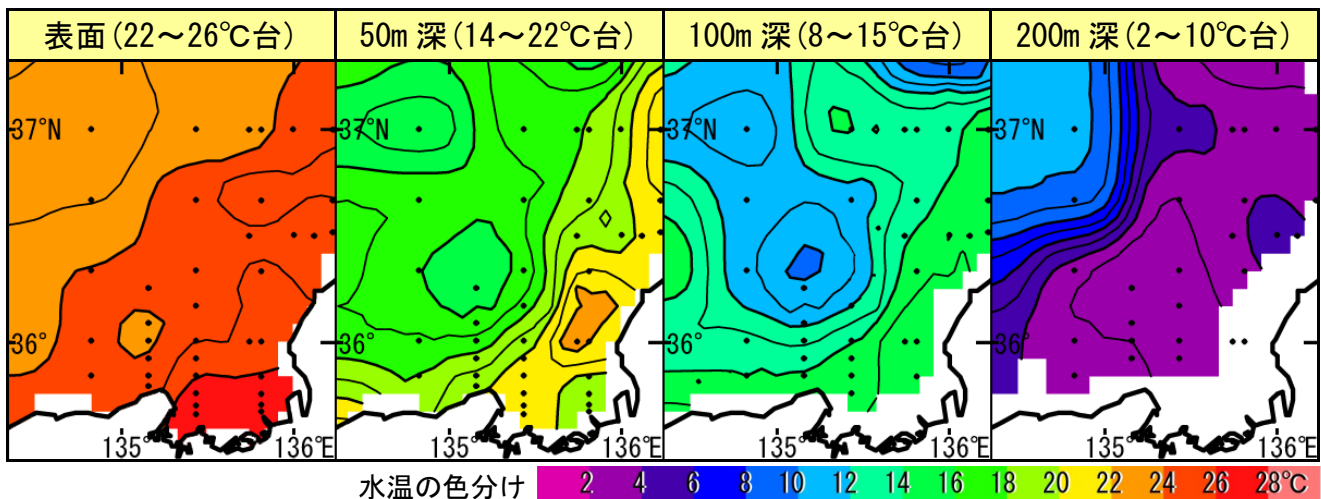
10月上旬における京都府周辺の表層水温は、ほぼ平年並みで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2010年10月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み~やや高め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並みか平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年よりやや弱め」で推移する見込み

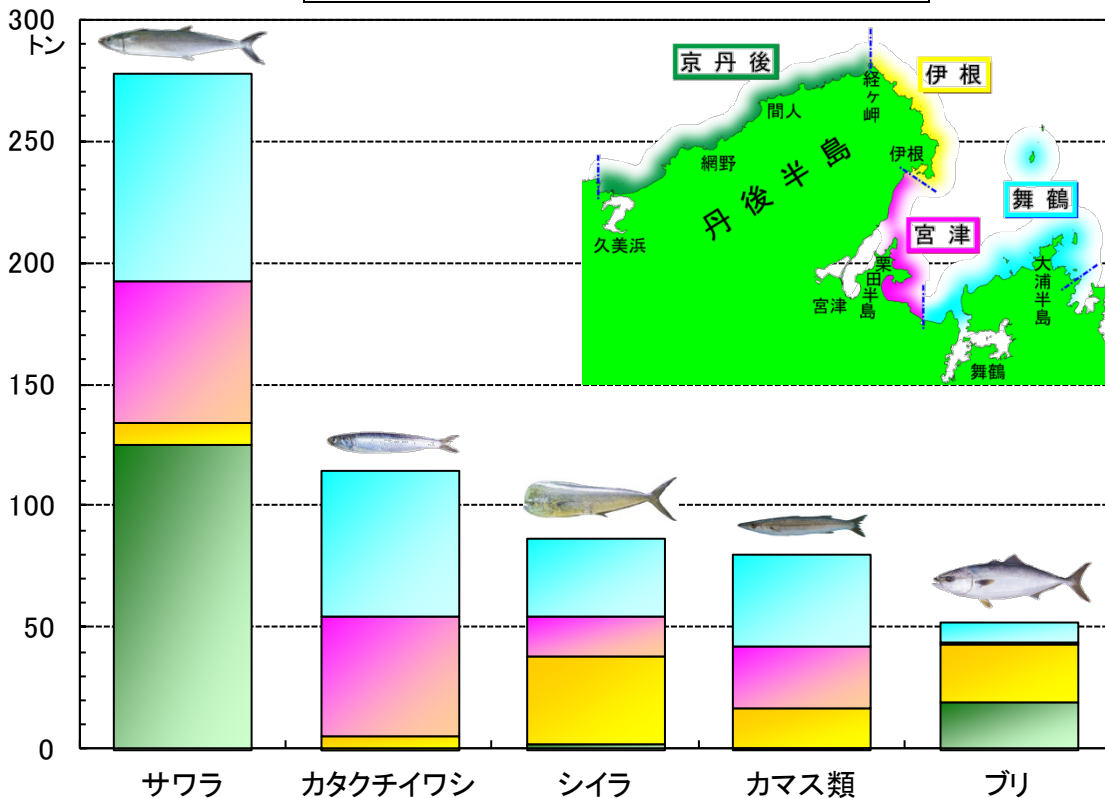
*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2010年9月～

【定置網漁業】

下旬にまとまった漁がありました。前年よりやや多く、平年の約8割の水揚げでした。

2010年9月の地域別漁獲量(上位5魚種)



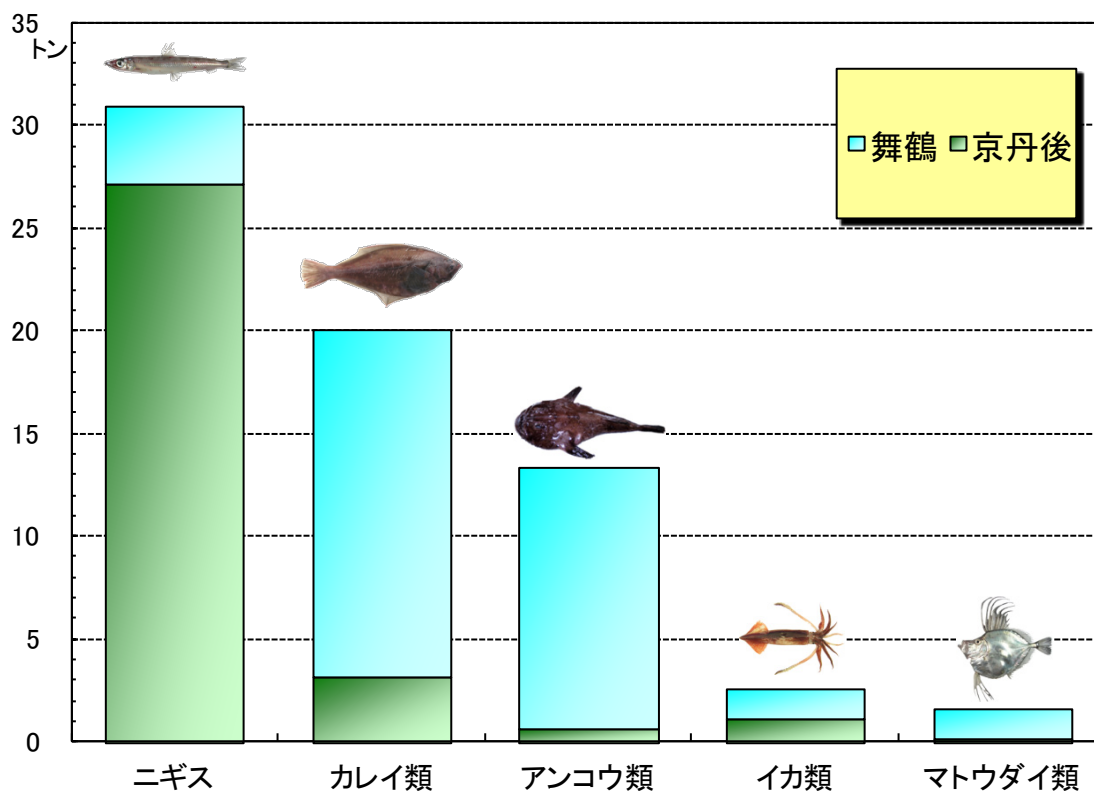
9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
サワラ	277.7	261.0 106%	284.6 98%	<サワラ>
カタクチイワシ(たれ)	114.6	63.2 181%	115.3 99%	さごし銘柄(尾さ長 35～45cm 主体)が 9 割以上、残りがさわら銘柄(尾さ長 55～70cm 主体)でした。
シイラ	86.6	64.1 135%	92.4 94%	<カタクチイワシ>
カマス類	80.6	15.5 520%	47.0 171%	体長 4～8cm が主体でした。
ブリ	52.2	144.1 36%	138.5 38%	<イカ類>
シロサバフグ(さんきゅう)	39.9	0.3 —	23.2 172%	アオリイカ(秋いか)が 25.4 トン、ケンサキイカ(白いか)が 6.1 トンなどでした。
カジキ類	33.0	5.9 558%	10.7 309%	<カジキ類>
イカ類	32.4	8.4 388%	20.4 159%	バショウカジキ(ばれん)が 28.8 トン、シロカジキが 4.2 トンでした。
マアジ	24.7	82.3 30%	177.2 14%	
マルアジ(青あじ)	9.6	5.5 173%	35.9 27%	
その他	51.2	57.8 89%	87.3 59%	
合計	802.6	708.2 113%	1032.5 78%	

平年は過去 10 年平均

【底曳網漁業】

9月から底曳網が解禁になりました。ニギスが例年より少漁で、全体では平年および前年の7割前後の水揚げでした。

2010年9月の漁獲量(上位5魚種)



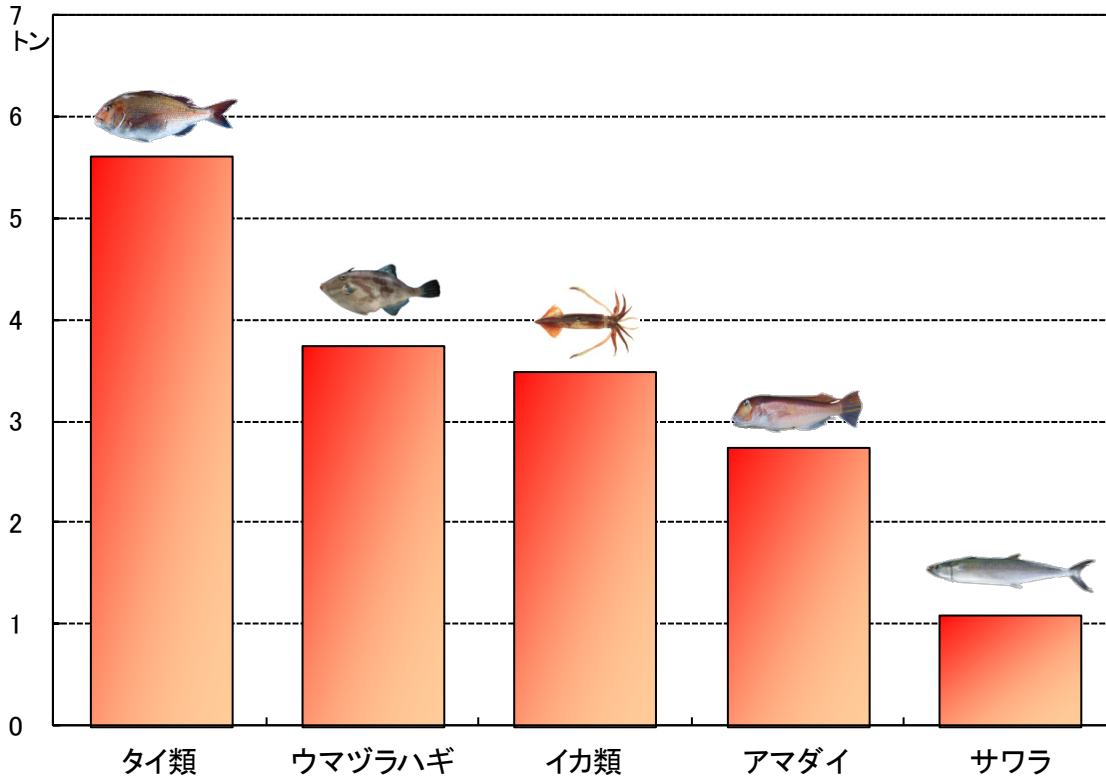
9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖きす)	30.9	70.1 (44%)	60.6 (51%)	<カレイ類> ヤナギムシガレイ(ささがれい)が11.0トン、ムシガレイ(みずがれい)が3.7トン、ソウハチ(えてがれい)が2.7トン、アカガレイ(まがれい)が2.0トンなどでした。
カレイ類	20.1	18.4 (110%)	24.3 (83%)	
アンコウ類	13.3	18.9 (71%)	11.2 (119%)	
イカ類	2.6	1.7 (155%)	2.5 (103%)	
マトウダイ類(ぼと)	1.6	2.0 (79%)	1.1 (141%)	
タイ類	1.5	2.2 (68%)	2.3 (66%)	
ハタハタ	1.4	1.4 (101%)	2.2 (64%)	
タコ類	1.3	1.4 (91%)	2.6 (52%)	
メバル類	0.5	0.3 (194%)	0.3 (148%)	
エビ類	0.4	0.5 (79%)	0.2 (203%)	
その他	7.7	3.8 (202%)	6.7 (115%)	
合計	81.4	120.6 (67%)	114.0 (71%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

イカ類の釣獲が例年より少なく、全体では平年および前年の6割前後の水揚げでした。

2010年9月の漁獲量(上位5魚種)



9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考	
タイ類	5.6	4.8 117%	4.2 133%	<タイ類> キダイ(れんこだい, 尾さ長 20~30cm 主体)が約7割, マダイ(尾さ長 25~35cm 主体)が約3割でした。	
ウマヅラハギ(長はぎ)	3.7	0.2 2294%	1.6 232%		
イカ類	3.5	19.3 18%	16.4 21%		
アマダイ(ぐじ)	2.7	4.1 67%	3.2 85%		
サワラ	1.1	2.4 46%	1.0 112%		
メバル類(もいお)	0.8	0.7 112%	0.8 103%	<イカ類> ケンサキイカ(白いか)が2.7トン, ソデイカ(たるいか)が0.3トン, スルメイカとアオリイカ(秋いか)がそれぞれ0.2トンなどでした。	
ブリ	0.5	0.6 84%	1.4 37%		
アジ類	0.4	0.7 53%	0.5 81%		
タチウオ	0.1	0.2 26%	0.4 15%		
その他	1.6	1.5 103%	3.2 49%	<アマダイ> 体長25~30cmが主体でした。	
合計	20.0	34.6 58%	32.7 61%		

平年は過去10年平均

【トピック ～ズワイガニと寒ブリ～】

丹後の冬の味覚, ズワイガニと寒ブリの今シーズンの資源状況(推定)をお知らせします。

<ズワイガニ>

カニ漁の解禁を11月6日にひかえ, 丹後半島沖のズワイガニの資源状況を調べるために, 8月下旬から10月上旬にかけて海洋調査船「平安丸」でカニかごを使った調査を行いました(下の写真)。今年の採捕状況は, 過去5年の平均値と比べると, 雄ガニ(松葉ガニ, 間人ガニ)が115%, 雌ガニ(こっぺ)が207%でした。



京都府のカニ漁では, 資源を持続的に利用するために, 平成20年度漁期から脱皮して間もない水ガニ(未成熟で肉質が劣る)の水揚げを自主的に禁止しています。

<寒ブリ>

日本近海における現状のブリの資源水準は中位で増加傾向です(水産総合研究センター調べ)。また, 日本海北部に分布する大型ブリ(2008年以前産まれ)のうち, 2007年産まれの3歳魚(体重10kg前後)の資源水準は高位です(富山県水産研究所調べ)。

12月までの対馬暖流域の50m深水温は平年よりやや高め, 沖合からの冷水域の張り出しはやや弱めで推移する見込みです(日本海区水産研究所調べ)。予測どおりの海況で推移すれば, 日本海北部や若狭湾沖からの大型ブリの南下時期がやや遅れたり, 沿岸から沖合までやや分散した回遊になったりするかもしれません。

資源や海況の見込みなどから, 今年度下半期の大型ブリの定置網漁獲量は近年並み※～やや少なめと予想されます。

※過去10年平均 62トン

